

夢ある建設の未来像を提案

戸田建設が考える建設の未来像～2030年の姿～

戸田建設（株）（社長：今井 雅則）は、「戸田建設が考える建設の未来像～2030年の姿～」の提案をします。

これは、現在から10～15年先に「できるはずの技術」を想定し、高度な情報化、工業化、他産業技術等によって生産性が向上した「夢ある建設業」を描くことで、今後の方向性を示し、最先端の施工・管理技術に対する社内の活性化を図ることを目的としたものです。今後、これをもとにオープンイノベーションによる社外のアイデアや技術を活用し、将来の技術開発等に役立てていきます。



「戸田建設が考える建設の未来像～2030年の姿～」

（左）表紙 （右）構成する4つのストーリー

1. 背景

当社では、1989年に「新世紀2010年の建設技術について」という社内懸賞論文を全社員から募集する企画が行われました。集まった166編はいずれも夢に溢れた力作揃いで、新世紀に向けた積極的な提案により、社内が大いに活性化されるとともに、その後の技術開発テーマの提案に大いに貢献しました。

今回は当社が生産性No. 1企業を実現するために組織した「生産性No. 1推進委員会」の活動の一環として実施され、主に入社2～12年目の若手社員（平均年齢30.5才）で構成される「夢たごWG」が活動の中心を担い、目標となる未来像を示しました。

2. 提案内容

様々な分野の情報化、工業化等に関する先端技術の情報を収集することで、今後10～15年先に「できるはずの技術」を想定し、それらを活用した近未来の「夢ある」社会生活や建設現場の姿を提示しました。提案は「入社2年目の建築社員」、「入社5年目の土木社員」、「入社12年目の建築主任社員」、「入社11年目の機械社員」という立場の異なる4人を主人公としたストーリーで紹介されており、VR（Virtual Reality）による遠隔地での会議の状況、ロボットを用いた効率の良い竣工検査等、読者が実感として理解しやすいよう工夫されています。

3. 今後の展開

当社は、本活動によって得られた情報や成果の報告会を12月5日に全社員に向けて開催しました。今後は、社内若手社員を中心に共有するとともに、オープンイノベーションによる社外のアイデアや技術を活用することで「夢ある建設業」の実現に真剣に取り組み、一丸となって生産性No. 1企業を目指します。